

兄島視察会を開催しました。

5月6日、7月5日に、一般の村民を対象に、兄島視察会を開催しました。視察会では、父島では見られなくなってしまったマイマイ、昆虫類、水生生物を観察してもらったほか、それらを守るためのネズミ対策、アノール対策、外来植物対策などの現場を見ていただきました。

◇視察会の様子・意見（ごく一部の抜粋です）



- ・マイマイがあんなにたくさんいることに驚いた。あんなに小さいとも思わなかった。
- ・生き物に興味があった。周りにも伝えたい。



- ・兄島で対策を進めなければならない意味が分かった。現場の苦労を実感した。
- ・非常に努力していると思うが、今のやり方で目標が達成できるか疑問も感じた。

地域連絡会議を開催しました

7月17日には、地域の代表者の方と、世界自然遺産の保全の取組に関して、意見交換を行いました。個別課題への意見の他、対策全般の進め方について、次のような要望をいただきました。これらの意見を真摯に受け止め、今後の取組に生かしていきます。

◇地域の代表者からの主な要望

- ・固有陸産貝類の危機的状況などの課題に対し、地域としてできることを教えてほしい。
- ・行政、地域がタッグを組んで、皆で目指すべき目標を掲げてほしい。
- ・各対策の長期的な計画・ロードマップを示して欲しい。

今後も、母島・兄島等での視察会・観察会を開催予定です。また、10月には、一般の方と、世界遺産に関わる地域の課題を意見交換するため、村民意見交換会を開催いたします。皆様のご参加により、ぜひ地域の声をお聞かせください。

◇◆お問い合わせ先◆◇

本チラシに関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

環境省小笠原自然保護官事務所

Tel/Fax : 04998-2-7174/7175

E-Mail : RO-OGASAWARA@env.go.jp

林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター

Tel/Fax : 04998-2-3403/2650

東京都小笠原支庁

Tel/Fax : 04998-2-2123/2302

小笠原村環境課

Tel/Fax : 04998-2-3111/3222

詳しい情報は下記のホームページをご覧ください。
小笠原自然情報センターHP : <http://ogasawara-info.jp/>



小笠原自然情報センターだより 第9号 2015年8月発行

小笠原諸島世界自然遺産地 地域連絡会議 事務局

兄島マイマイ保全の最前線

今年2月以降の取組（かごわなによるネズミ対策）

「ネズミの食害で、世界遺産の核心的な価値と言ってもいい兄島の陸産貝類が危機的な状況だ」、「でも、殺鼠剤を使った手法は環境に影響がないか、検証が必要。」そのような状況から、2月以降、かごわなによるネズミ対策を進めてきました。



希少種が残っている重要エリアで、かごわなによるネズミの捕獲を実施



ネズミに食べられたカタマイマイの殻



1cmに満たない小さなマイマイも被害に

設置したかごわなは、1500個余り、2-6月のネズミの捕獲数は、計600頭にのぼりました。結果、かごわな周辺では、ネズミをある程度減らすことができ、陸産貝類がやや回復した場所もあります。しかし、それらは一部の地域にすぎず、兄島の陸産貝類を危機的状況から救うには至っていません。

今後の取組（殺鼠剤を使ったネズミ対策の開始）

かごわなでの対策と同時に、第三者委員会（小笠原諸島ネズミ対策検証委員会）による、殺鼠剤の環境影響の検証が進んでいます。5月に行われた第2回委員会では、「バイトステーションによる殺鼠剤を用いた対策は、環境負荷が少なく、かごわなよりも効果的であること」が提言されました。また、バイトステーションを用いた対策を行う場合の留意点も示されました。

この提言を踏まえ、これからバイトステーション方式の殺鼠剤を使ったネズミ対策を展開していく予定です。



ボックスの中に殺鼠剤を充填する。有効成分が流出しにくい、他の生物に食べられにくいなどの利点がある。

世界自然遺産にかかわるトピック

◆平成27年度前半シーズンの世界遺産に関するトピックをご紹介します。

兄島のグリーンアノール対策

- ◆目的：兄島の昆虫の保全。昆虫類が持つ植物の花粉媒介などの生態系機能を健全に維持すること
- ◆現在の状況：
 - ・粘着トラップ約40,000個を設置し、平成25年3月以降、合計で約16,000個体を捕獲。固有昆虫の生息に影響を与えない状況は維持できている
 - ・一方、根絶達成の目処は立っていない。
 - ・H26、兄島中部に、北部への拡散を防ぐ防除柵を完成
- ◆今後の予定（短期的）：
 - ・粘着トラップを用いた局所的な根絶の達成。
 - ・誘引など捕獲技術の改良。化学防除技術の検討。



上空から見たグリーンアノール防除柵（H27.3完成）



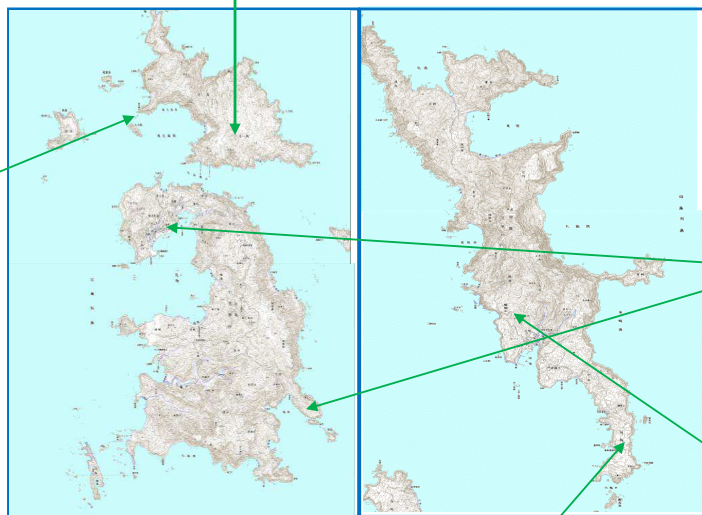
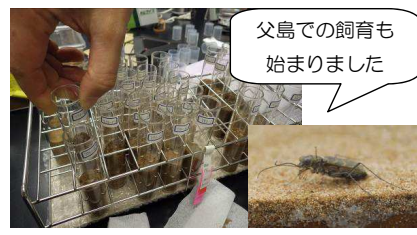
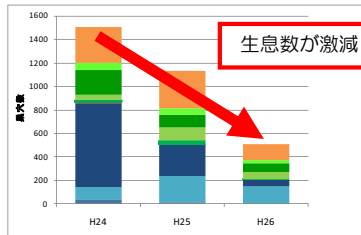
トラップを超高密度に設置し、根絶を図る

黒いトラップに集まる！？
～トラップの改良試験～



兄島の昆虫類保全（オガサワラハンミョウを絶滅から守る取組）

◆放っておくと、2-3年で絶滅してもおかしくない状態。主な減少要因と考えられる外来植物駆除を継続しながら、内地飼育個体の兄島への移殖を今秋実施予定。



外来アリ類への対応

◆母島のツヤオズアリ

他地域では陸産貝類などへの生態系影響が確認されているツヤオズアリが、母島へ侵入していることが確認されました。南崎では、既に陸産貝類への影響が出始めているとの専門家からの指摘もあり、今後対策について、検討していきます。



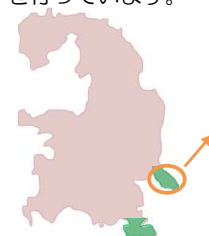
◆硫黄島のアカカミアリ

訪島事業において、係留中のおがさわら丸への飛来を確認。次年度に向けて対応を検討中です。



父島におけるマイマイ保全の取組

◆生息域内での対策
父島で数少ないプラナリアの侵入していない陸産貝類の生息地を守るため、プラナリア侵入防止柵の設置などを行っています。



鳥山地域におけるプラナリア侵入防止柵の設置（H27.3完成）

◆生息域外での対策
父島島内や、一部兄島の個体を緊急的に回収し、室内飼育により増殖させています（将来的には、再び野外に放すことも想定）



恒温機での室内飼育



飼育ケアの様子

オガサワラシジミ保全の取組

◆生息域内での取組

グリーンアノール対策や、本来シジミが生息する森林を再生するために外来植物の駆除を進めています。今春は、対策を進めている新夕日ヶ丘でも多くのシジミが観察できました。



植栽による積極的な環境整備も行っています

◆内地での取組

緊急事態に備えて、種が保存するため、多摩動物公園での飼育の取組が継続されています。昨年度、2世代までの交尾繁殖に成功しました。



室内飼育で交尾に成功したオガサワラシジミ